

東京農業大学稲花小学校

学校だより【6月14日】第11号



知的好奇心を大切に

6月に入りましたが、子どもたちのダンゴムシブームは一向に衰えません。ダンゴムシだけではなく、最近はさらに、赤くなってきたヤマモモの実をはじめとする様々な木の実、落ちていた？小さな花びら、素敵な石などを握りしめて、子どもたちが登校してきます。

雨上がりのコンクリートで半死半生になっているミミズを取り囲んで、土の上に戻そうとがんばった子どもたちもいました。どんなものでも、何だろう、どうなっているのだろうと関心をもつのは学びの第一歩。「汚い、気持ち悪い、早くしなさい。」の一言で片づけることなく、よく見る、よく考える習慣をつけてもらいたいと願っています。本校の教職員も、子どもたちのなぜ？どうして？を誘発する教え方、さらに、そのなぜ？ どうして？に答えられる能力を養うように努力しています。

子どもたちの関係も、成長しています。思わずお友だちをたたいてしまったり、悪口を言ってしまうたり、は小さい子どもたちが必ず通る道。しかし最近、なぜたたいてしまったのだろう、どうして悪口を言うとお友だちは悲しくなるのか、そこにも、なぜ、どうして、と考える成長が見られるようになってきたようです。4月の入学式から考えると、その成長には驚かされます。

農大アカデミアセンターの見学

6月6日(木)の「稲花タイム」では、東京農業大学の農大アカデミアセンターにある屋上庭園を見学しました。小学校のテラスから、教頭先生が子どもたちに手を振ってくれているのに気づいて大喜び。さらに、新宿副都心、経堂駅、三軒茶屋、武蔵小杉等の大きな建物群を目印に、自分の家を探す子どもたちもいました。屋上庭園の小さな水たまりにいる、ヤゴも見せていただきました。その後は農大アカデミアセンター内にある理事長室、学長室、法人本部の事務室等を訪問。職員の皆さんには暖かく迎えていただきました。おそらく、今までで一番小さな訪問者だったのではないのでしょうか。農大稲花小学校の制服を着た子どもたちが、お行儀よく大学内を歩く様子は微笑ましいものです。

日々成長し、様々な体験を重ねる子どもたち。保護者やご家族の方々にも、楽しかったこと、うれしかったこと、驚いたこと等、毎日の出来事を子どもたちからゆったりと聞く時間をとっていただきますようお願いいたします。

校長 夏秋 啓子